

若者発！ **ボランティア・福祉教育実践研究プロジェクト**



若者への福祉教育研究会



埼玉県社会福祉協議会ひまわり基金と、赤い羽根共同募金の助成を受けています。

はじめに

若者への福祉教育研究会（以下、若福研）は、2016年8月に立ち上がり、これまで埼玉県内で行われている福祉教育実践の見える化、サービスマーケティングの視点によるプログラムのブラッシュアップ、福祉教育関係者のネットワーク化を行ってきました。若福研でかわって来た福祉教育プログラムを報告書（「次世代の共生力を育むための福祉教育実践プログラム集 埼玉発！草の根のからのプログラム」2018年8月）にまとめることができました。

その活動は、関係者から大きな評価を得られていたものの、若福研の名称に反して、若者自身からの発信が少ない、プログラムができていない、その場が創られていないということが見えてきました。このようなことから、地域で主体的に活動している若者のボランティア団体に声をかけて若者プロジェクトを立ち上げました。アドバイザーには、若福研の事務局でもあり、聖学院大学ボランティア活動支援センターアドバイザー・講師でもある川田虎男氏にお願いできました。若者プロジェクトでは、それぞれの活動を振り返り、また、若者一人ひとりがどんな思いを持って活動をしているかを確認していきました。

若者たちの活動は、活力と熱意と様々なアイデアに満ちており、その活動を生み出す若者自身も輝いていました。なによりも、若者がかかわっている高齢者、障害者、子ども、その支援の方々が若者たちから楽しみや癒し、大きな希望を得ていることが見えてきました。若者プロジェクトでの活動をこの報告書にまとめています。この若者プロジェクトの活動を契機として、若者ボランティア団体が連携しながら、更なる活動を進化し、その活動に関わっている若者の一人ひとりが大きな成長を遂げることを期待しています。

最後になりましたが、報告書をまとめるにあたり、この若者プロジェクトに関わった若者ボランティア団体の皆様、その団体を支援し続けている皆様、また、かかわっている皆様には多大なるご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

令和2年3月

若者への福祉教育研究会

目 次

| | |
|------|---|
| はじめに | 1 |
| 目 次 | 2 |

プロジェクトの概要と成果

| | |
|-----------|---|
| プロジェクトの経緯 | 5 |
| プロジェクトの成果 | 6 |

参加団体の概要

| | |
|-------------------|----|
| ひだまりサロン | 10 |
| ていにー☆ていにー | 11 |
| ゆめの園ボランティア | 12 |
| ちゅうりっぷ学習会 | 13 |
| ヤングボランティアグループコスモス | 14 |
| こども食堂ひこうき雲 | 15 |
| つるがしまジュニアサポートクラブ | 16 |

活動の記録

| | |
|-----------|----|
| シンポジウムの記録 | 19 |
| プログラムの概要 | 24 |

資 料 編

| | |
|------------------|----|
| ワークシート様式 | 31 |
| ワークシート回答内容 | 34 |
| シンポジウムチラシ | 37 |
| プロジェクト参加者アンケート結果 | 39 |

プロジェクトの概要と成果



若者プロジェクトの経緯

本プロジェクトでは、主に埼玉県坂戸市・鶴ヶ島市で活動を行っているボランティアグループの中で特に高校生・大学生が中心になっている団体に呼びかけ、実施に当たっては、社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会・筑波大附属坂戸高校等の学校・支援団体とも連携した。毎回各団体から数名の参加があり、10～20名程度が集まり話し合いを進めて行った。具体的な日程・内容・参加団体は以下の通りとなっている。

プロジェクトの実施日と内容

※詳細は P.18 ～を参照

| 回 | 日 時 | 会 場 | 内 容 |
|-------------|---------------------------------|---------------------|--|
| 第1回 | 2019 年 4 月 7 日 (日) 13:30 | 鶴ヶ島市市民活動 推進センター | 各若者ボランティアグループ活動内容、活動の工夫、悩み、課題の共有 |
| 第2回 | 2019 年 6 月 2 日 (日) 13:00 | 筑波大学附属坂戸 高校交流棟 | グループワーク「共通課題：ボランティアグループのメンバーが定着するには？」 |
| 第3回 | 2019 年 7 月 27 日 (土) 15:00 | 筑波大学附属坂戸 高校福祉実習室 | グループワーク「ボランティア（を行っている人）の意味」「ボランティアが相手や社会に与える影響・意義」 |
| 第4回 | 2019 年 9 月 1 日 (日) 10:00 | 鶴ヶ島市市民活動 推進センター | ・10/14 報告会へ向けての打ち合わせ ・ボランティア活動、取組み掲示物の作成 |
| | 2019 年 9 月 8 日 (日) | 筑波大学附属坂戸 高校セミナー室 | 筑波大学附属坂戸高校文化祭「黎明祭」参加 掲示物の展示発表 |
| 第5回 | 2019 年 10 月 14 日 (月・祝) 13:30 | ウエスタ川越 | 若者発！ボランティア活動 実践報告会 |
| プロジェ クト後 | 2019 年 10 月 20 日 (日) 9:30 | 川越市下小坂 | 繋がりのできたメンバーで合同活動：台風 19 号被害支援活動 |

参加団体一覧

※各団体の詳細は P.9 ～を参照

| 団 体 名 | 活 動 内 容 |
|-----------------------|-------------------------------|
| ひだまりサロン | 高齢者同士の交流や世代間交流を目的とした高齢者サロンの運営 |
| ていに一☆ていに一 | 児童館での子どもの遊び支援 |
| ゆめの園ボランティア | 障がい者施設のゆめの園での交流活動等を実施 |
| ちゅうりっぷ学習会 | 子どもの居場所づくりとして、学習支援等を実施 |
| ヤングボランティアグループ コスモス | 知的障害児の余暇支援として月に 1 回外出活動等を実施 |
| 子ども食堂ひこうき雲 | 地域の居場所づくり・多世代交流・食育を目的に食堂を運営 |
| つるがしまジュニアサポート クラブ | 子どもの健全育成を目的にレク指導やイベントの協力を実施 |

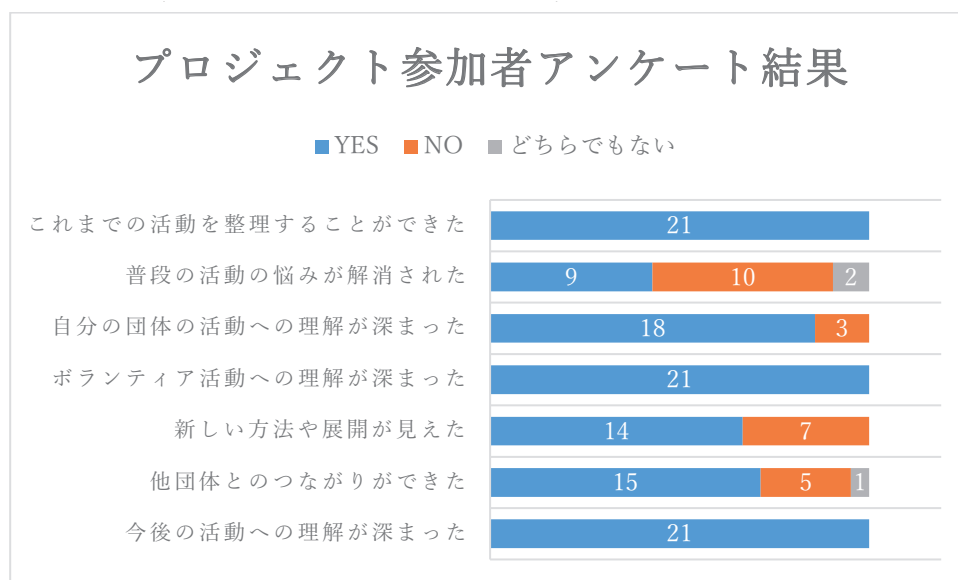
若者への福祉教育研究会 若者プロジェクトの成果について

聖学院大学ボランティア活動支援センターアドバイザー・講師 川田 虎男

1. 本プログラムの特徴

サービスマーケティングはアメリカのデューイによって提唱され、1960年代にアメリカの大学で導入されてきた教育手法である。「Service 社会への貢献活動」と「Learning 学習」を掛け合わせた言葉からもわかる通り、社会への貢献活動を通して学びを深めることを目的としている。一般的なプログラムにおいては、活動の前に事前学習、後に振り返りが行われ、それら一連のプロセスを通して活動の意味づけや社会課題への気づき、自分自身の社会的スキルや専門的知識の獲得等につなげていく。今回参加した高校生・大学生はそれぞれ地域でのボランティア活動を継続的に取り組んでおり、十分な活動経験を有していた。彼らの言葉からは活動を通して対象者との関り（コミュニケーション力、支援方法等）、会の運営に取り組み（企画力やリーダーシップ・マネジメント等）、社会の課題への視点等をすでに現場の中で学んでいることが確認された。しかしボランティア活動は社会的な課題の解決等活動そのものが主たる目的となるため、学習効果は副産物という位置づけになる。そのため、学びの内容も個々の気づきに委ねられている。そこで本プロジェクトにおいては、サービスマーケティングの手法を活かし、地域で取り組む高校生・大学生が自分達の活動を振り返り、相互に気づき・学びあうプロセスを支援し、主体的な学びの場づくりを行った。

2. アンケート集計からみるプロジェクトの成果



アンケート結果からは、「これまでの活動を整理することができた」「ボランティア活動への理解が深まった」「今後の活動への理解が深まった」については参加者全員が YES との回

答であった。活動面の整理や理解については、「自分がどうしてボランティアをしていたかなど改めて考え直すことができた」「原点に戻って考え直すことができた」「活動に取り組む上で何を目的として取り組むべきかが分かった」等、今回のプロジェクトを通して自分自身の原点を再確認したり、団体のミッションを再確認する機会になったことが伺えた。また、ボランティア活動への理解については、「ボランティアの自分にとっての意味、社会にとっての意味を改めて感じられた」「ボランティアが他者のためだけでなく自分のためだと言うことが知れた」等、ボランティアに対する認識が単に他者や社会への貢献ということに留まらず、多様な役割や効果があるとの理解が深まっていることが伺えた。次に多くの成果があったものとして、「自分の団体の活動への理解が深まった」(18 人)、「他団体とのつながりができた」(15 人)、「新しい方法や展開が見えた」(14 人)と続いている。「普段の活動の悩みが解消された」(9 人)については、YES と回答した人よりも NO・どちらでもない(12 人)の方が多く、団体の個別の悩みの解消にまでは結びつかなかったことが伺える。

3. 地域で取り組む意味

(1) 地域における福祉教育（サービ斯拉ーニング）を行う意義

一般的に地域における若者のボランティア活動は定着が難しいと言われている。通常、高校生であれば3年、大学生であっても4年という限られたサイクルがあり、その中で受験・就職活動等へも対応しなくてはならず、毎年メンバーが入れ代わっていく団体も多く存在する。そのため、毎年ゼロから団体のミッションを確認する必要がある、代ごとに活動の活発度も変化する。そのため、活動の形骸化も進みやすく、力のあるリーダーが卒業すると同時に会が解散することもある。そのような中で、地域で本プロジェクトが実施されたことで、特定のリーダー層だけでなく、ボランティア活動に参加する多くの若者達が自分達の活動の意義を再確認することができたことは、彼らのモチベーション向上に有効であったと考えられる。また、活動の形骸化を活動の意味を見失っているにも関わらずただ活動（形）だけが持続することだとすれば、このような機会を通して自分達の活動の意味を再確認できたことは、今後の活動の発展や質の向上にも繋がっていくことが考えられる。

(2) 多様な団体が互いに学びあう場を設定することの重要性

今回の参加者の多くは、鶴ヶ島・坂戸を中心に活動を行っている高校生・大学生のボランティアであった。普段はそれぞれに活動を展開しており、互いに知り合う機会がなかった団体・個人同士がプロジェクトを通して互いの活動について理解をする機会になった。単に団体の情報を知っただけでなく、共通の課題があることや、お互いの持っているノウハウや強みを生かすことで、互いに活動が活発になることに気づくことができた。また、複数回の学習会や報告会を行うプロセスを通して、緩やかなネットワークが形成され、メンバーによる団体相互の往来や複数の団体に所属するメンバーも増えた。

今後、一つの団体では実施が難しい合同での研修や学習の機会を定期的に行っていくことへの機運なども醸成された。

4. 今後の課題について

(1) 研究会の内容について

アンケート結果を見ると、自分達の活動への理解やボランティア活動への理解は深まったことが確認されたが、個々の団体の悩みの解消については必ずしも成果が上がったとは言えない。これは、参加者の所属する団体の活動分野が障がい児・者支援、子ども支援、高齢者支援、居場所づくり、等多岐にわたっていたため、参加者全体の共通課題を優先して取り組んだ結果だと考えられる。今後は個別のテーマごとに振り返ると共にその課題解決に向けた場も必要であると考えられる。団体ごとの専門の学びの場と若者のボランティア活動共通の学びの場をうまく分けながら支援していくことが求められると考えられる。

(2) 若者の福祉教育プログラムづくりとして

「はじめに」のメッセージにもあるとおり、本プロジェクトは若福研の名称に反して、若者自身からの発信が少ない、プログラムができていない、その場が創られていないとの反省からスタートした。その点から考えると、若者が主体的に学び合う場を作り自分達から発信することはある程度達成することができたと考えられる。しかし、若者発のプログラム作りという意味では、まだ課題も多く残っている。当人達の実感としては振り返りを通して、活動の意義や学びについて確認をすることが出来たが、それをプログラムに落とし込むことまでは至らなかったと考えられる。今後は、「若者発のプログラム」としてさらにブラッシュアップして発信していけるよう取り組んで行きたい。

参加団体の概要

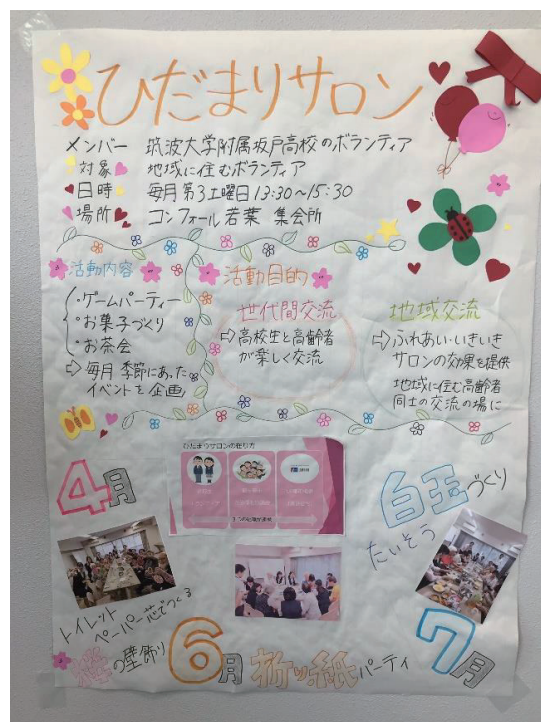


ひだまりサロン

- | | |
|-----------|-----------------------|
| (1) 設立年 | 2013～2014 年 |
| (2) 団体概要 | 高齢者サロン |
| (3) 団体目的 | 高齢者同士の交流、世代間交流 |
| (4) 活動日 | 毎月第3土曜日 13:30～15:30 |
| (5) 活動場所 | コンフォール若葉集会所 |
| (6) 活動内容 | ゲームパーティー、お菓子づくり、お茶会など |
| (7) 利用者 | 13 人 |
| (8) 活動者年代 | 16～18 歳 |
| (9) 活動者数 | 7 人 (男/女 7) |

<活動を通しての学びや成長>

- ・毎月企画を考えたり、交流することで相手（高齢者）の立場に立って考えたり、思いやることができるようになった。
- ・コミュニケーション能力がついた
- ・人との繋がり大切さを改めて感じた
- ・人の役に立つすばらしさを実感



～ 支援者からのコメント(抜粋) ～

社会福祉協議会は、サロンの支援や参加者の呼びかけ等をおこなっています。ひだまりサロンの活動は「住民による住民のための地域福祉活動」ではなく「高校生による高齢者のための地域福祉ボランティア」ですね。高校生が運営するサロンは、高齢者にとって発想が新鮮でとても刺激的に感じます。

先日見た「人生ゲーム」を一緒に楽しむ場面では、小さな駒を動かすのは高校生が行い、お金の管理を高齢者に任せるなど、配慮や工夫を活動からお互いに学びあっていて、相乗効果が得られる展開になっていると感じました。別の日の「サイコロトーク」では、その時のお題は「今はまっている事」でしたが、高校生は好きなミュージシャンのライブに行った事をお話しました。でも、高齢者の番になり伺っても、「何もない」「気力もないよ」との返事。そのような時でも、話を繋げて興味ある事へと話を掘り下げていく様子がありました。「若い頃は麻雀をしていた」というキーワードから、新たに「健康麻雀」が開設することになりました。

まさに、若者ボランティアが地域を繋げ、地域づくりを行った例です。

サロン参加者は、生活の楽しみの一つになっています。



鶴ヶ島市社会福祉協議会
生活支援コーディネーター

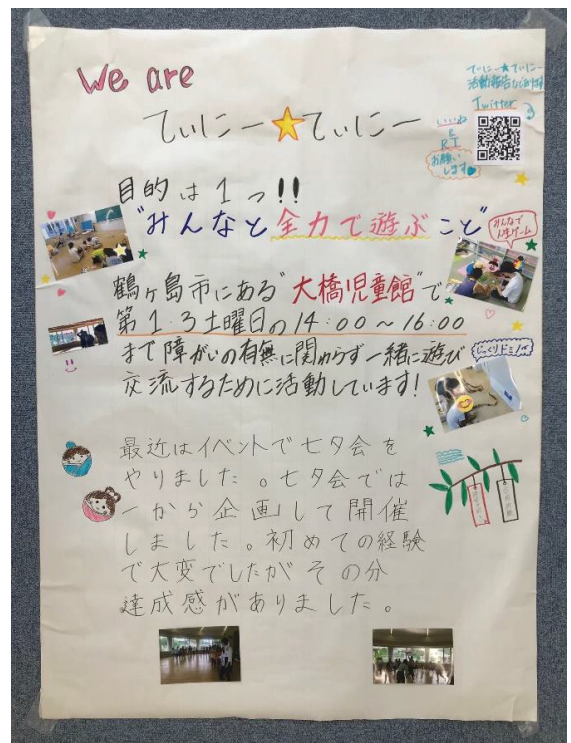
北堀さん

ていにー☆ていにー

- | | |
|-----------|-----------------------|
| (1) 設立年 | 2012年 |
| (2) 団体概要 | 子ども遊び |
| (3) 団体目的 | 児童館での遊び支援 |
| (4) 活動日 | 毎月第1.3土曜日 14:00~16:00 |
| (5) 活動場所 | 鶴ヶ島市大橋児童館 |
| (6) 活動内容 | 児童館遊び |
| (7) 利用者 | 平均15人程度 |
| (8) 活動者年代 | 18~21 歳 |
| (9) 活動者数 | 12 人 (男 8/女 4) |

<活動を通しての学びや成長>

- ・コミュニケーション能力の向上
- ・相手の話を聞く力がついた
- ・笑顔の大切さを学んだ



～ 支援者からのコメント(抜粋) ～



鶴ヶ島市大橋児童館
館長 小高さん

ていにー☆ていにーの活動は、8年目になります。主に城西大学の経済学部
の学生が活動していて、福祉科でもない学生がよく頑張ってくれていると思
っていました。

我々職員は年齢も上がってきているので、学生ボラの若さは力になります。
そして、発想が若く勢いがあるので、私たち職員もいい刺激をもらっています。

未就学児や小学生、中学生、高校生との関わりを学びつつ活動してくれて、
異年齢との関わりの仲介役になりながら全力で遊んでもらうことで、子どもた
ちのストレス発散や親御さんの助けにもなっています。

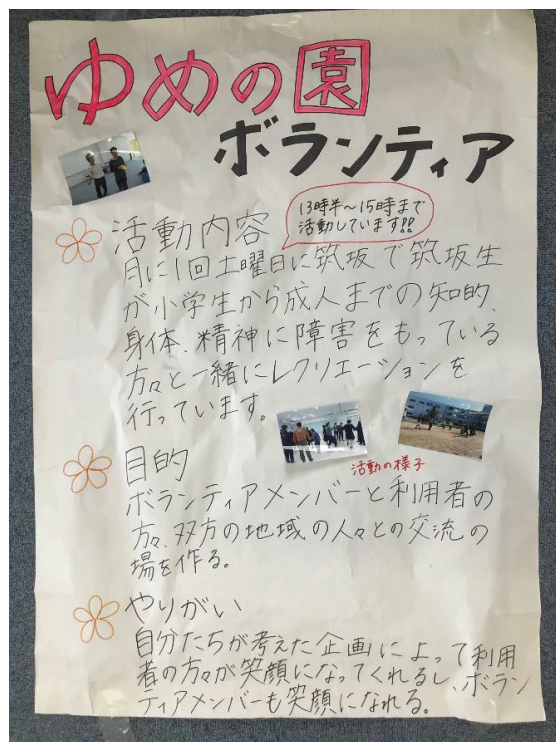
以前あった障害児の受け入れは登録者がいなくなりましたが、障害児サー
ビスを利用しない方やパステルゾーンの方、家庭でネグレクトが疑われるよう
な方の児童館利用率が高くなってきています。分け隔てなく、ここに来た子たち
と全力で遊んであげることで、その子たちの居場所づくりに一役買っていた
いてと思います。これからも頑張るね。

ゆめの園ボランティア

- | | |
|-----------|----------------------|
| (1) 設立年 | 2014 年 |
| (2) 団体概要 | 障害者支援 |
| (3) 団体目的 | 互いの地域の人々との交流の場 |
| (4) 活動日 | 月 1 回土曜日 13:30～15:00 |
| (5) 活動場所 | 筑波大学附属坂戸高等学校 |
| (6) 活動内容 | レクリエーション |
| (7) 利用者 | 15 名程度 |
| (8) 活動者年代 | 15 歳～筑坂卒業生 |
| (9) 活動者数 | 32 名 (男 14/女 18) |

<活動を通しての学びや成長>

- ・障害者に対しての見方が変わった
- ・自分から話しかける積極性が身についた
- ・コミュニケーション能力を高めることができた



～ 支援者からのコメント(抜粋) ～



鶴ヶ島ゆめの園

伊藤さん

クリスマス会のお手伝いなど、通常のボランティア活動以外にもお世話になっています。

日中一次支援という所に通っている方々は、いつも狭い場所で活動しているのですが、月1～2回会場を筑波大学附属坂戸高校の場所を借りて活動できるのは大変ありがたいです。

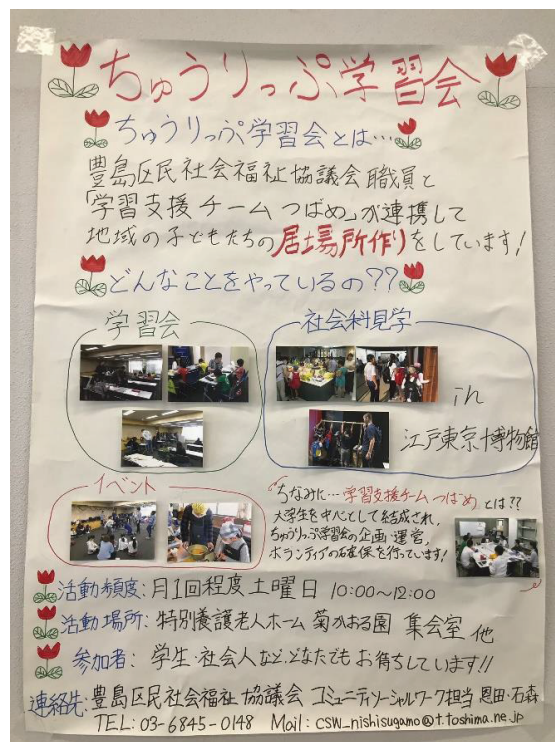
みんなで大きく広がって ボール遊び等普段できない活動ができる事、遊びの支援とスペースの提供をしていただけるのは、大変助かっています。

利用者さんの中では、他者との距離感が掴めず、人と近づきすぎてしまう方がいます。実は、高校生ボランティアさんとの関わりの中で、距離感を学べる実践の場にもなっているのです。

ボランティアさんと一緒に大きな貼り絵の制作もしているのですが、その活動の中でも人との関わり方を学ぶ場になっていると感じています。活動の中では、利用者さんも役割を持つことができ、自信にもつながるし、外部の人との交流の場は大切に貴重な場だと捉えています。

ちゅうりっぷ学習会

- | | |
|-----------|----------------------------|
| (1) 設立年 | 2011 年 |
| (2) 団体概要 | 子どもの学習支援 |
| (3) 団体目的 | 子どもの居場所づくり |
| (4) 活動日 | 月 1 回 10:00~12:00 夏休み |
| (5) 活動場所 | 特別養護老人ホーム菊かおる園 |
| (6) 活動内容 | 宿題の手伝い、レク、 スポーツ大会、社会科見学 |
| (7) 利用者 | 10 人程度 |
| (8) 活動者年代 | 21~23 歳 |
| (9) 活動者数 | 5 人 (男4 /女1) |



～ 支援者からのコメント(抜粋) ～



豊島区社会福祉協議会
地域相談支援課

C SW担当 川人さん

ちゅうりっぷ学習会の目的は、家庭力が低下し教科学習が追い付かない子どもたちに対し、基礎学力や生活技術の基本を身に付けさせると共に支援者との関係を通し精神的安定を図るというものです。

学生の皆さんは、社協職員や地域住民より子どもたちの年齢に近いことから、心理的な近さとともに安心感をもたらしています。学生ならではの自由な発想と、枠のない立場で、子どもたちが楽しくちゅうりっぷに参加できる環境を作ることができているのではないのでしょうか。

ちゅうりっぷは地域の子どもたちにとって、大切な居場所の一つになっています。

「子供たちの成長を間近で見られるのは得難い喜びです。ここでは、子どもたちから教えられることも多い、そういう意味で自分も一緒に成長できる場所です」これは、ちゅうりっぷ参加者の感想です。

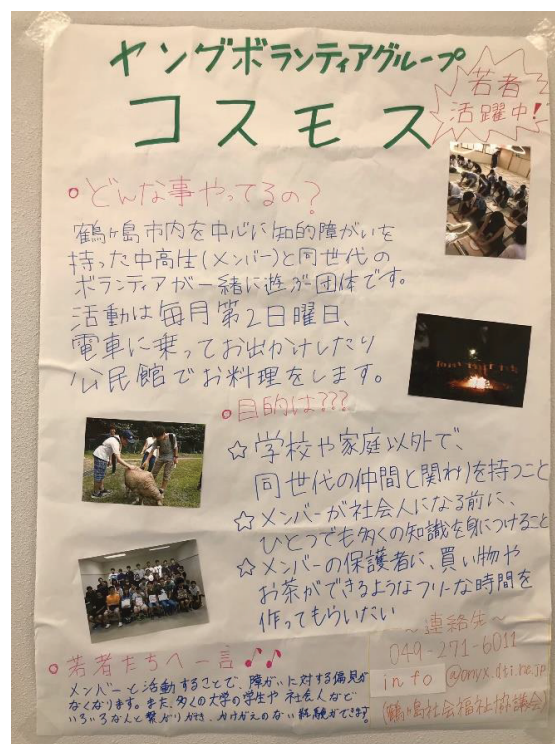
子どもたちに真摯に向き合い、共に悩み語り、どうしたらちゅうりっぷを良いものにしていけるかを常に考えていてくれる学生の皆さんには社協をはじめ、地域の皆さんは感謝の気持ちでいっぱいです。

ヤングボランティアグループコスモス

- (1) 設立年 1999 年 4 月
- (2) 団体概要 障害者支援
- (3) 団体目的 知的障害者の余暇支援
- (4) 活動日 毎月第 2 日曜日 9:00~17:00
- (5) 活動場所 鶴ヶ島市内公民館
- (6) 活動内容 外出・室内企画
- (7) 利用者 5 人程度
- (8) 活動者年代 15~21 歳
- (9) 活動者数 9 人 (男 6/女 3)

<活動を通しての学びや成長>

- ・人の気持ちを考えることができるようになった
- ・障がいを持った人の偏見がなくなった
- ・皆が思っているほど、私たちと違っていている所がないこと



～ 利用者家族からのコメント(抜粋) ～



利用者家族

関 さん

娘が 17 年前にお世話になりました。

当時、中・高校生の知的障害の子と遊んでくれるコスモスという団体があると聞き、喜んですぐに電話を掛けた記憶があります。どうしても参加したかったため、事前に面接の練習をしてから行きました。参加できることになった時は本当に嬉しかったです。高校を卒業するまで 5 年間お世話になりましたが、第 2 週の日曜日がとても楽しみにしていました。高校 3 年生の時には、卒業式もやっていただきましたが本当はもっと通っていたかったのが本音です。コスモスに通っている時は、学校の同級生にも兄弟にも相手にしてもらえないでいたので、年齢が近い大学生に関わってもらえたのは本人もですが、親も嬉しかったです。

そして、今でも街中で見かけるとコスモスのメンバーが「お！元気？」なんて声をかけてくれ、話ができるのもとても嬉しく感じています。今もボランティアを継続して頂いていて、ありがとうございます。

継続は力なりです。

活動していく中で気づきや嬉しいこと、楽しいことの共有から感じる事が何かあると思います。今後とも、ぜひ続けていってください。

子ども食堂ひこうき雲

- | | |
|-----------|------------------------|
| (1) 設立年 | 2017年8月 |
| (2) 団体概要 | 子ども食堂 |
| (3) 団体目的 | 第3の居場所づくり・ 多世代交流・食育 |
| (4) 活動日 | 毎月第3日曜日 10:30~15:00 |
| (5) 活動場所 | 筑波大学附属坂戸高校交流棟 |
| (6) 活動内容 | 昼食づくり、体験、交流 |
| (7) 利用者 | 10~20人 |
| (8) 活動者年代 | 16~75歳 |
| (9) 活動者数 | 約20人 |

<活動を通しての学びや成長>

- ・ボランティア自身が食事を通じて縦、横の繋がりを得られ、第3の居場所となった。
- ・子どもとの関わり方を学んだ



～ 支援者からのコメント(抜粋) ～



子ども食堂 ひこうき雲
事務局 倉持さん

活動の様子は、子ども達が学生ボランティアの皆さんと一緒に過ごせることをとても楽しみにしていて、いい関係性ができていると感じています。思いっきり走り回ったり、季節を感じる遊びができたり…先生と子ども、親と子どもという以外の大人との関係性を作れる場所だと思います。

参加する子どもたちの表情や馴染み方の変化に気づけるようになったのは、同じ学生スタッフが継続して活動してきた成果なのだと思います。

問い合わせも増え、地域の大人たちが興味をもち注目されてきていると感じています。

学生ボランティアみんなの頑張りは、なかなか行動に移せない大人達にもいい刺激になっているのではないのでしょうか。

これから先、長く関わっているメンバーが年を重ね走れなくなったとしても、常に世代交代した学生ボランティアが関わってくれさえすれば、活動は続けていけると考えています。

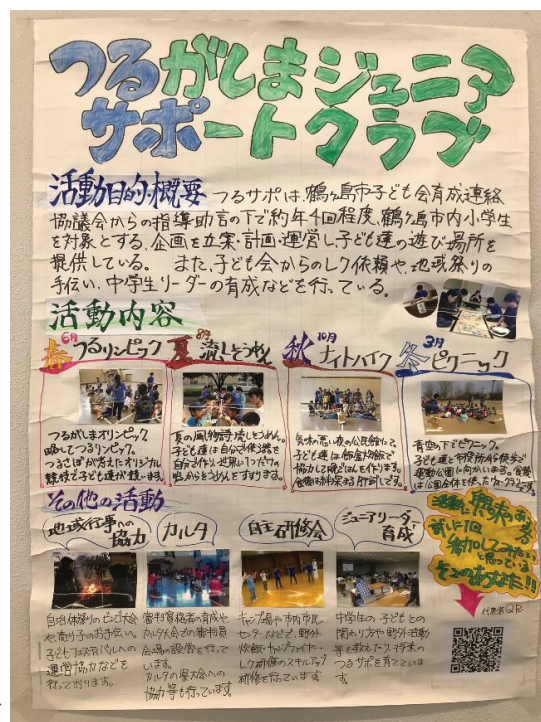
いつしか、学生ボランティアで来ていた学生さんが自分の子どもを連れて参加してくれる日も来るのではないかと夢を描いています。

つるがしまジュニアサポートクラブ

- (1) 設立年 2000 年
- (2) 団体概要
- (3) 団体目的 子どもの健全育成
- (4) 活動日
- (5) 活動場所
- (6) 活動内容 年間 4 回自主企画行事、レク指導
イベント協力
- (7) 利用者
- (8) 活動者年代 17~26 歳
- (9) 活動者数 24 人 (男 12/女 12)

<活動を通しての学びや成長>

- ・大人の方々とコミュニケーションをとることが多く、調整業務など社会人になっても生きてくる。
- ・会議の話の運び方やまとめることが少し得意になった。
- ・様々な人との出会いがあり、様々な考え方が知れて参考になる



～ 支援者からのコメント(抜粋) ～

私たちよりも遥かに子どもたちの喜ばせ方を知っているのので、事業はほぼ丸投げの状態です。私たちのほうがレクの相談をしに行ったりする程のレベルになっているので、事業は安心して任せています。

ジュニアリーダーの育成も鶴サポのメンバーが上手に話をしてくれ、年齢も近いせいか話がスムーズに子どもたちに入っていくようです。

また、そのような姿を見ている小学生が、将来自分もああなりたいと憧れの存在になっています。先日小学 6 年生の子が「どうやったらジュニアリーダーになれるのですか?」と聞きに来たほどです。繋がりが上手くできつつあります。

小学生、中学生、高校生、それ以上、小学生の保護者、本部の役員と世代が揃い、循環でき後継者育てがうまくいけばいいと考えています。そのためには、本部もなくならないように頑張っています。

生涯学習フォーラムで、鶴サポの活動をお伝えすると「ああいう子たちがいると未来は明るいよ」とお褒めの言葉をいただきました。私も、そう思います。



鶴ヶ島市
子ども会育成会連絡協議会
北岡 さん

活動の記録



若者発！

ボランティア活動 実践活動報告会

日 時 2019年10月14日(月・祝)

午後1時～4時

場 所 ウエスタ川越2階 会議室1

《 プログラム 》

1. 開 会

2. 報 告

【第一部】

各7団体による活動報告

受入れ先・支援者からのコメント

- ①ひだまりサロン ②ていにー☆ていにー ③ゆめの園ボランティア
- ④ちゅうりっぷ学習会 ⑤ヤングボランティアグループコスモス
- ⑥子ども食堂ひこうき雲 ⑦つるがしまジュニアサポートクラブ

【第二部】

シンポジウム「若者ボランティアの価値」

・コーディネーター 聖学院大学 川田 虎男(若福研事務局次長)

・シンポジスト

「つるがしまジュニアサポートクラブ」社会人4年目 土橋 翔

「ていにー☆ていにー」 城西大学3年 岩崎 佑亮

「ひだまりサロン」 筑波大附属坂戸高校3年 石井 葵

「子ども食堂ひこうき雲」 筑波大附属坂戸高校3年 志摩 光平

コーディネーター



3. 閉 会





「つるがしま
ジュニアサポートクラブ」

社会人 4 年目

土橋 翔 さん

●動機…小学一年生の時から子供会活動が好きだったから。でも、決定打は、高校入試の時に願書に書けるからという不純なものでした。

●継続理由…そこで会った仲間達でもっと知り合いたいという思いや、子ども達をもっと楽しませたいという心境の変化が出てきたことです。小学一年生の時から遊んでくれたお兄さんへの憧れと、一緒に活動することも魅力でした。今では自分がそういう人でいたいという気持ちがあるためです。

●私にとっての鶴サポとは、社会人になる過程だと思っています。市役所の人や高齢者の方等と話す機会が多く、コミュニケーション能力が上がると思います。活動はストレス発散、居場所、学ぶ場というのが、私にとってのボランティアだと思います。

シン ポ ジ ス ト



「ひだまりサロン」

筑波大附属坂戸高校 3 年

石井 葵 さん

●動機…もともとボランティアに興味があり、授業でボランティア活動の紹介がありました。将来は看護師になりたい夢があったので、将来に役立つと思い、友人と一緒に参加したのがきっかけでした。

●継続理由…楽しいからです。普段関わりの少ない後輩や、高齢者の方々と関わること、参加者が楽しめる企画を考えること、楽しんでもらえた時は達成感があります。やってあげるのではなく、高齢者の方々と一緒に作り上げていくことが、学校にはない取り組みと感じます。私にとっても貴重な居場所になっています。

また、高齢者の方のお話は、人生の教訓や料理など…様々な事を知れて、ボランティアでなければ作れない対等な関係性が嬉しく、楽しいからです。



「ていに一☆ていに一」

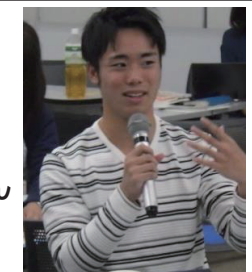
城西大学 3 年

岩崎 佑亮 さん

●動機…大学でボランティアの授業があり、楽に単位が取得できるからという不純な動機です。

でも、もともとボランティアへの好奇心はあり、よく言えば、自分の持て余している時間と力を有効に人のために使いたいと思いボランティアに挑戦しました。

●継続理由…8 割が「楽しい」2 割が「責任感」です。子ども達と遊ぶのは何よりも楽しいし、子どもだけでなく人とのふれあいが好きなため、人から様々な話を聞けたり情報を得られたりするの、「楽しい」と思えることです。2 割の「責任感」とは、ボランティアで教えていただいた事柄を自分だけで終わらせず、誰かに伝えていきたいと思っています。2 割でなく 5 割あるかもしれないです。



「子ども食堂ひこうき雲」

筑波大附属坂戸高校 3 年

志摩 光平 さん

●動機…もともと「子供たちが住みやすい社会と街づくり」に興味があり、児童福祉を将来学びたいと思っていたところ、団体を紹介してもらいました。子ども食堂とは、生活困窮者に栄養バランスのいい食事を提供するというイメージが強かったため、活動に興味があり一歩を踏み出しました。

●継続理由…新しい気づきがあるからです。この子ども食堂は、高齢者や障害者も一緒に参加し交流がうまれている。これは一種のコミュニティの再生にも繋がっていくのではと考えています。このような、新しい発見ができることが一つです。もう一つは、新しい繋がりです。若福研の皆さんや子ども食堂ネットワークの方と繋がるほか、同じボランティアの仲間との繋がりやそこから新たな発見があることが、楽しくて続けています。

シンポジウム

若者ボランティアの価値

川田(コーディネーター)：自分たちにとって、ボランティアにはどんな意味・価値があるのか更には、どのようにボランティアを広げていくことができるか？について一緒に話していければいいなと思っています。

価値とは、活動が続けている理由と自分たちの活動の価値の意味が繋がるものだと思います。

もう一つは、社会にとっての価値とは何かという部分にも触れていきたいです。

志摩：社会にとっての価値を考えると、ボランティアによって子ども食堂の機能性を高められると考えています。

朝日新聞が小学6年生までに実施した、子ども食堂に行く前の子どもと、行った後の子どもに「自分に自信があるか？」とアンケートを取ると、行った後の子どもたち、およそ8%自分に「自信がある」と答えた子どもが多かったと言われています。これは、子ども食堂が子どもにとっての自己肯定感を強化していく機能があることを裏付けていると思うのです。私たちボランティアはその機能性を更に上げていく、更により良いプログラムを作っていくことに、社会的な意味があるのではないかと考えています。

川田：子ども食堂の中で自己肯定感が養えるということも社会的意味を持っているのではないかということですね。

石井：繋がりや居場所として、社会にとって大きな価値があると思います。

利用している高齢者が、新しい利用者を連れてきてくれることで新しい繋がりができます。また、このようなボランティアの団体や社協などと繋がりがもて、広がっていると感じます。現代社会は地域の繋がりが薄れているといわれていますが、繋がりを深められたり、

各々が人や地域との繋がりを大切なものだと思感が持てるのかなと思います。

居場所という面では、生活の中の楽しみを提供できると感じています。社会問題があるからボランティアがあるのですが、そのような社会問題を若いうちから身近に感じられ、当事者意識が感じられるのは価値だと感じます。

川田：居場所や繋がり、学生たちの学びになるということだけでなく、社会問題を実感できたり当事者意識を持てたりするようになるということですね。

岩崎：人との出会い。出会いからの体験が、全て自分への成長につながっていくのが自分のボランティアの価値だと思っています。豊かな社会や地域を実現する元気な社会を作るきっかけを作るのがボランティアだとも思っています。社会から見たら手助けが必要な方に手を差し伸べフォローしあうことで、よりよい社会にできるのではないかと考えています。

川田：出会い、繋がり。トータルして、ご自身の成長につながっている。社会としては、大きな枠組みですが、元気な社会を作るきっかけになるのがボランティアではないかという事ですね。



土橋： ジュニアリーダーは全国的にある組織なのですが、災害の時にはその高校生が頑張っていました。社会的には、いざという時に動ける人材を育成できるのがジュニアリーダーだと思っています。これは、県でも色々な研修会があり、様々な内容の知識を学べる機会があることも関係していますが。他のボランティアでもあると思いますが、普通に過ごしているだけでは知りえなかったことが、いざというときに役立ち、豊かに生きるためのツールとして役立つのいいと思います。

また、地域愛が芽生えその地に留まる、もしくは戻ってくるケースが増える事もあります。そうなれば地域の支えや文化の継承などがされていくと考えます。

川田： 人材養成の場であったり、地域愛を育む場所にもなっていたんだということを実感としてお持ちなのだなということが分かりました。

熊倉先生： 私は高校の福祉科の教員として生徒に「こんなボランティアがあるよ」と紹介し、生徒の活躍を見ているという立場なのですが。

活動の様子を見てみると、任せることでどんどん伸びていき、社会をよくしていってくれるのが感じられ、それこそが社会的な意味になるのだと思っています。

また、活動先ではボランティアで高校生がそこに存在しているだけで褒めてもらえる。

学校では、ダメなところを指摘して伸ばしていく文化があり、あまり褒められることがないような気がする。それに比べ、ボランティアに行くと山ほど褒めてもらえ、自己肯定感が持てる。そして、そこで育まれた力が結果として社会での問題を解決していく力へと変化していくのではないかと考えます。いい循環があるのではないかと。

土橋： ボランティアは自分のため。やっていくうちに楽しくなった。友達がいるから活動が好きになっていった。

どんな人でも、広い心を持って受け入れることも大事かと思う。それがないと、いずれは活動が途絶えてしまう。活動したいと思う動機や心構えは、人それぞれ。

今日、話を聞いてさらに様々な考えで活動している人がいることを知れたのは、更なる勉強となりました。

石井： 誰かのために何かをしてあげるといのがボランティアという意識が、社会に根付いていしまっている傾向があると感じています。でも、実際はボランティアは自分のため。自分のためにやって、楽しかったから、社会問題があることも知れて、副産物的に社会のために役立つというものだと感じています。

これまでボランティア活動をしていて「楽しい」と感じることはあっても、このように価値だとか、自分のためになっている事を考えるようになったのは若福のお陰だと思います。

ボランティアは楽しいです。でも、それで終わりにするのではなく、その先に何かがあるのか？活動から学べたり、知れたことを知らない人へ伝えていくには、自分たちの活動を見つめ直し社会や自分に対するメリットを言語化して、皆さんに伝えられるようになると、活動者が広がっていきボランティアをする人が増えていくのではないかと考えています。



志摩： 社会的な意義を初めから考える必要はないのではないかと考えます。その活動のリーダーシップをとる人が社会的意義を見いだしていれば、メンバー全てが感じて取り組む必要もないのではないのでしょうか。活動を広めていくには、まずは活動の楽しさを伝えていくことが大切だと思います。

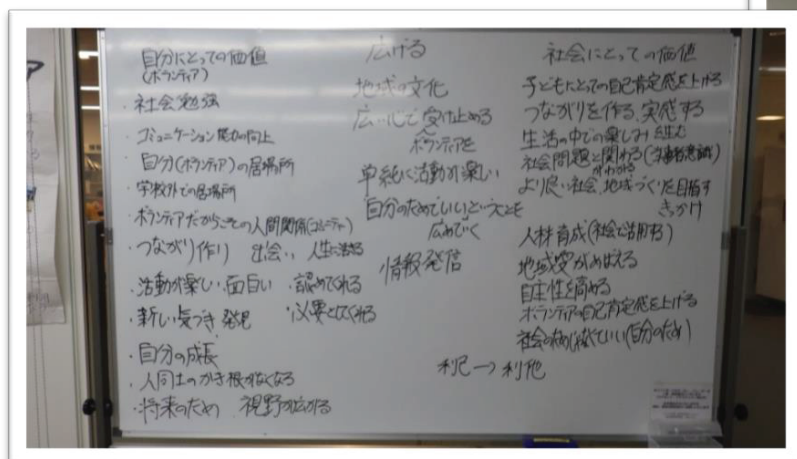
ボランティア活動にはさまざまな活動があるので、これから始めようとしている人が自分に合った活動に出会えるよう、私たちは外部に向かって、活動の内容や楽しさ発信していく必要があるとおもいました。

川田： ボランティアをやったことがない人に対して、社会的価値などという大変に感じてしまうので、あなたにとってこんな良いことがあるよ。楽しいよ。成長にもつながるよ。出会いがあるよ…などと自分にとっての価値というところで誘っていくのがとても入りやすいのではないかと思います。

社会的価値は「正義」になってしまうことがあるので重いですよね。社会のためにこれをやってと言われるのもつらくなる。ただ、ボランティア活動は自分のためだけでいいとも言えない。自分のためでもあるし、社会のためでもあるのがボランティアの可能性なのではないかと思っています。

これからリーダーとして活躍される皆さん、スタートは、自分のため個人の価値からスタートするのだけれどもリーダーとして活動にはどんな意味があるのか？それは社会的価値があるのか？さらには、それがどういう社会の課題と繋がっているのかという部分を見据えながら考えていけるようになると思います。

何より大切なのは、自分で語った言葉が大切。実感のこもった言葉は人に伝わるもの。今日語り合った言葉を大切にしながら、就活に活かす方、ボランティア活動に活かす方、それぞれこの学びを繋げていただけたら幸いに思います。



若者プロジェクトのプログラム概要

●第1回

2019年4月7日（日）13:30 鶴ヶ島市市民活動推進センター（ワカワーク）

内容：各若者ボランティアグループ活動内容、活動の工夫、悩み、課題の共有



●第2回

2019年6月2日（日）13:00 筑波大学附属坂戸高校 交流棟

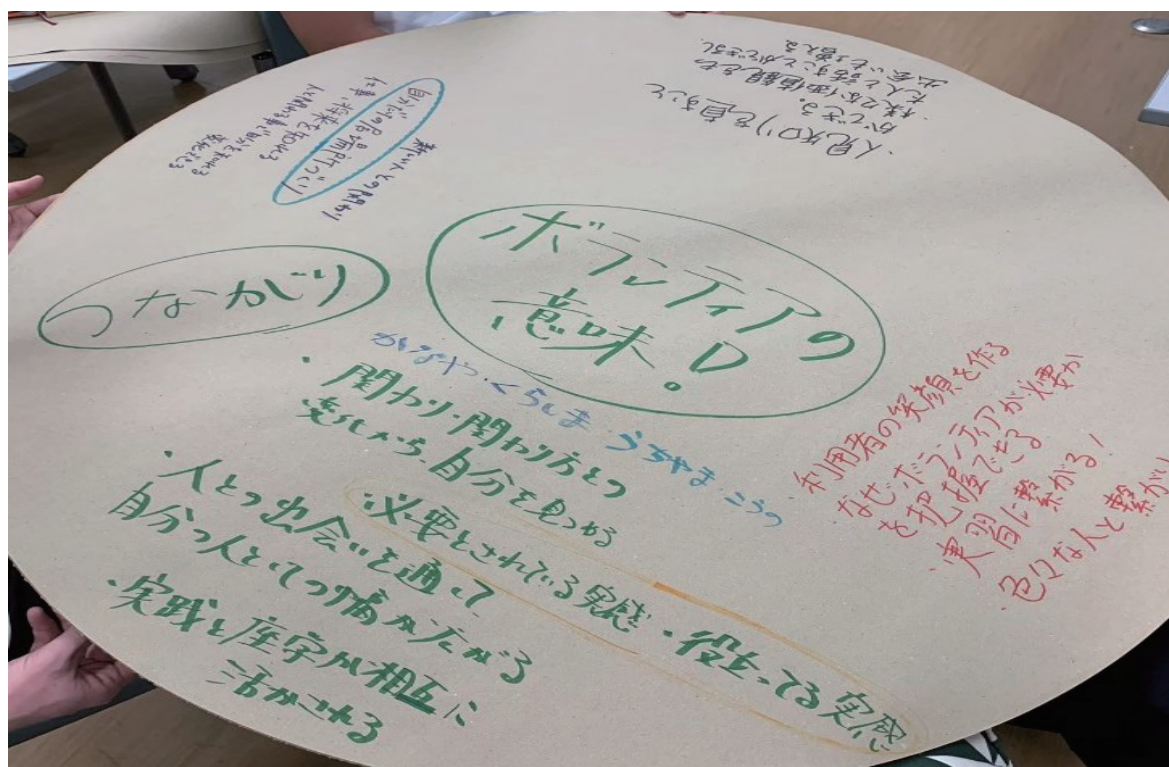
内容：グループワーク「共通課題：ボランティアグループのメンバーが定着するには？」



●第3回

2019年7月27日（土）15:00 筑波大学附属坂戸高校 福祉実習室

内容：グループワーク「ボランティア（を行っている人）の意味」
「ボランティアが相手や社会に与える影響・意義」



●第4回

2019年9月1日（日）10:00 鶴ヶ島市市民活動推進センター（ワカバウォーク）

内容：・10/14 報告会へ向けての打ち合わせ
・ボランティア活動、取組み掲示物の作成



●筑波大学附属坂戸高校文化祭「黎明祭」参加

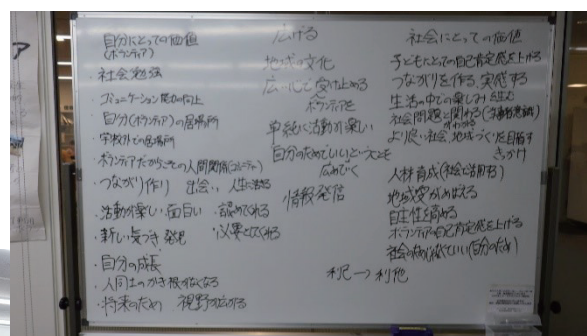
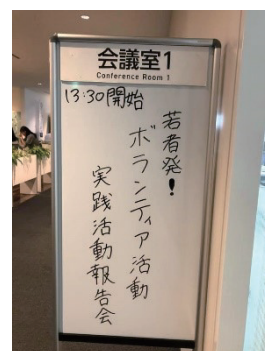
2019年9月8日（日）筑波大学附属坂戸高校セミナー室

内容：掲示物の展示発表



●若者発！ボランティア活動 実践報告会

2019 年 10 月 14 日（月・祝）13:30 ウェスタ川越



●番外編「繋がりのできたメンバーで合同活動：台風 19 号被害支援活動」

2019 年 10 月 20 日(日) 9:30 川越市下小坂



資料編



第1回目の共有で利用したワークシート

若者への福祉教育研究会・団体名

氏名

活動の工夫と課題について

| | |
|---|--|
| 運営で工夫していること 例：新人勧誘・会議の持ち方、研修会等 | |
| 運営で悩んでいること | |
| 活動プログラムで工夫していること 例：子供たちが楽しめるような工夫、メンバーが来てよかったと思える工夫等 | |
| <u>活動プログラムで悩んでいること</u> | |
| 活動を通しての自分自身の学びや成長 | |

活動の工夫と課題について

| | |
|--|--|
| <p>運営で工夫していること</p> <p>例：新人勧誘・会議の持ち方、研修会等</p> | |
| <p>運営で悩んでいること</p> | |
| <p>活動プログラムで工夫していること</p> <p>例：子供たちが楽しめるような工夫、メンバーが来てよかったと思える工夫等</p> | |
| <p><u>活動プログラムで悩んでいること</u></p> | |
| <p>活動を通しての自分自身の学びや成長</p> | |

| | |
|---|--|
| 活動をはじめた きっかけは何で すか？ 複数記入し、順 位をつけてくだ さい。 | |
| 活動が続けてい る要因は何だと 思いますか？複 数記入し、順位 を付けてくださ い。 | |
| 活動の中で思い 浮かぶ一番よか ったこと・学べ たことは何です か？ | |
| 活動の中で思い 浮かぶ一番つら かった、大変だ ったことは何で すか？ | |
| その他、活動に 関しての思いや 伝えたい、思っ ていることなん でも記入してく ださい。 | |

ワークシート回答内容

| | | |
|---|---------------------|---|
| A | きっかけ | |
| | 続けているのは | |
| | 一番良かったこと | 子どもが手紙書いてくれる。なじめなかった子が元気になってくれる。大きくなったら、ここで活動したいといってくれる。継続性の重要性 |
| | 学んだこと | 子どもの怒り方、関わり方 |
| | 辛かったこと | 継続的に関わることが重要。継続して学生が参加することにより、学生がいるから子どもがくる。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | |
| B | きっかけ | 先輩がいたのと、大学の授業で単位の取得ができた。 |
| | 続けているのは | |
| | 一番良かったこと | 発言できるようになった。様々な人の前で話すことが多くなった。メンバーから名前でも呼んでもらった。 |
| | 学んだこと | |
| | 辛かったこと | 初めて参加したときに立ち尽くした。調理企画でハンバーグをつくって投げた。フォローはなかった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | 続けていくことに価値があった。 |
| C | きっかけ | だれかのために何かをしたかった。好奇心があった。 |
| | 続けているのは | 自分が単純に楽しい。子どもころの意識が戻るのが単純に楽しい。人に会える、様々な人と話ができる。 |
| | 一番良かったこと | 名前を呼んでくれる。 |
| | 学んだこと | 笑顔の大切さ。笑顔の練習もした。 |
| | 辛かったこと | 子どもがいなかった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | 人間関係の難しさに気がついた。ボランティア同士のコミュニケーションの大切さ。2回目にどうやって来てもらえるか。ボランティア同士が仲良くなれないとムードが悪くなる。 |
| D | きっかけ | 友達に誘われた。食品ロスのことについて高校で活動していたため、興味があった。高校家庭科の教員の免許を取りたいので役に立つのではないかと。 |
| | 続けているのは | |
| | 一番良かったこと | |
| | 学んだこと | |
| | 辛かったこと | 子どもが多くスタッフが少ない。近所の子ども同士いやなことを言っていた時に何もできなかった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | 継続して行う事が大切。 |
| E | きっかけ | 2年生の授業で進められた。 |
| | 続けているのは | 高齢者との交流ができる。住民としての人とつながりができる。高齢者と関わることが楽しかった。 |
| | 一番良かったこと | 高齢者と楽しく話せた。フレンドリーな方が多い。 |
| | 学んだこと | |
| | 辛かったこと | 運営側が少ない時に、参加者がたくさん来てしまった。事前の人数がわからなかった。材料の把握ができなかった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | サロンはとても良い場所。他の視点からやる事が大切。いざやってみると楽しかった。 |

| | | |
|---|---------------------|---|
| F | きっかけ | 3年生の授業で進められた。看護の仕事をしたかったので、福祉の活動をしたい。高齢者との関わりがあまりないので。 |
| | 続けているのは | 人とのつながりがとても増えた。人の温かみを感じることができた。誰かのために活動して喜んでもらえること。 |
| | 一番良かったこと | 自分たちの企画で、高齢者が喜んでもらえる。 |
| | 学んだこと | 人とのつながりの大切さが重要。 |
| | 辛かったこと | 運営側が少ない時に、参加者がたくさん来てしまった。事前の人数がわからなかった。材料の把握ができなかった。お菓子作りが大変だった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | あまりかかわることのない方との関わり、地域の方々と関わる機会がないが、今後も発展できるように頑張りたい。自分が参加して、自分が学んで、人間性を高めていきたい。 |
| G | きっかけ | 授業であって、友達に誘われた。 |
| | 続けているのは | 来てくれた人が喜んでもらえる。続けることが大切だと思っている。 |
| | 一番良かったこと | |
| | 学んだこと | |
| | 辛かったこと | 当日に思った人以上の人がきた。これまで来ていた方が、遠慮してこなくなった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | |
| H | きっかけ | |
| | 続けているのは | 自分たちで企画をして活動する仕組みが自分のためになると思う。 |
| | 一番良かったこと | |
| | 学んだこと | すべての人が同じではなく、一人ひとり違うコミュニケーションの取り方がある。 |
| | 辛かったこと | 運営側が少ない時に、参加者がたくさん来てしまった。事前の人数がわからなかった。材料の把握ができなかった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | いい経験ができています。こんな経験をできる機会はない。もっと、高校生に来てもらいたい。 |
| I | きっかけ | 福祉系につきたい。1年以上のボランティアをすることで有利になる。 |
| | 続けているのは | 利用者の笑顔。 |
| | 一番良かったこと | |
| | 学んだこと | |
| | 辛かったこと | ひだまりサロンに参加したかった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | |
| J | きっかけ | 授業、福祉にいきたい。 |
| | 続けているのは | 福祉関係者に会え、現場の話を聞ける。 |
| | 一番良かったこと | |
| | 学んだこと | |
| | 辛かったこと | 人数がばらばら、子ども同士の言い合いをとめるべきかどうか。つならなさそうな子どもにみんなと一緒に楽しんでもらうためにどうするか。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | 全体が見える力がほしい。どこにいても、全体を見なければならぬと思うので、自分も身に付けていきたい。 |

| | | |
|---|---------------------|--|
| K | きっかけ | 将来介護士になりたい。ネットでサイトをみて、社協に電話して活動をはじめた。 |
| | 続けているのは | 自分もこうになりたい。自分を必要とされている。 |
| | 一番良かったこと | 人の気持ちを考えることができた。障害への偏見がなくなった。 |
| | 学んだこと | |
| | 辛かったこと | 自分が行動できなくなった時に辛かった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | 活動以外の場所でも障害者への手助けができるようになった。 障害者への偏見があったが、同じ団地に住んでいる足の悪い人が動けなくて、失禁をしていた。危ないとおもったが、おばあちゃんしかいなかったので、運んであげた。 |
| L | きっかけ | ボランティアに興味があった。先輩から誘われた。 |
| | 続けているのは | 自分自身も楽しんで活動している。 |
| | 一番良かったこと | 利用者の笑顔。活動以外で出会って声をかけてくれた。 |
| | 学んだこと | 利用者から話しかけてくれたり、ゲームに積極的に参加してくれる人もいるので、一人ひとりの様子を見る。 |
| | 辛かったこと | 代替わりしたときにうまくいかなかった。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | 高校生が企画することが大切なので、この活動を大切にしたい。多くの人が参加できるようにしてもらいたい。 |
| M | きっかけ | 高校生が主体になって活動している。ボランティアが活発だった。 |
| | 続けているのは | 施設の利用者が積極的に話しかけてくれる。代表としての使命感。 |
| | 一番良かったこと | |
| | 学んだこと | 笑顔が大切。しゃべらない方もいるので、笑顔で楽しさがわかる。 |
| | 辛かったこと | 知的障害があるが程度がちがうので、それを考慮して企画をする。 先輩への指示を遠慮してうまく回らない。 |
| | 活動に対しての思い 伝えたいこと | 男の利用者から、手を握られたりしていやにならない。 活動の流れを知っているが、1から考え直して活動をしていきたい。 |

仲間と共に
頑張る分だけ、
楽しくなった



それぞれの団体の活動

【参加団体】子ども食堂ひころう
きぐも・ひだまりサイ
ン・ゆめの園ボランティア
ア・ヤングボランティアグループ
スモス・ていにー☆てい
にー・つるがしまJrサ
ポートクラブ・チューリ
ップ学習会

価値・課題・意義の出

し合い アドバイザー

川田 虎男 氏(聖学院大学)

社会を変える、地域とのつながり、
自分の将来のためになる、様々な
価値を知る、成長できる、楽しい、
活動者不足、定着しない、

新たなネットワークと
新たなステージへ

地域課題・ニーズの確認。活動をする若者との出会い、様々な役割を持った機関・事業所との出会い
自分の進路・人生選択への影響
つながりによる多様性の理解

若者発!ボランティア活動実践活動報告会

令和元年 **10 月 14 日(月・祝)** 13:30~16:00

ウエスタ川越 2 階会議室1 参加費無料

埼玉県川越市新宿町 1 丁目 17-17 ・ 049-249-3777

対象 中学生・高校生・大学生・専門学生・若者ボランティアを支援したい方
興味のある方、支援している方、どなたでも

参加申し込みはこちらから⇒



主催・問合せ 若者への福祉教育研究会

E メール wakafukuken@gmail.com ☎ 090-1704-2344(事務局長 牧野)

ホームページ <https://wakafukuken.wixsite.com/saitama>

協力:鶴ヶ島市社会福祉協議会 ・ この事業は、「ひまわり基金助成金(埼玉県社協)」の交付を受けて運営しています。

子ども食堂ひこうきぐも

- ①毎月第3日曜日
10:30~15:00
②筑波大学附属坂戸
高等学校③参加費
中学生まで100円高
校生以上300円④ど
なたでも⑤子どもと
学生、地域の人と一緒に食事を作って食べ、交
流をし、第3の居場所を作っています。



ひだまりサロン

- ①毎月第3土曜日 13:30
~15:30②鶴ヶ島市
富士見コンフォール
若葉集会室
③参加費200円④自
力で来られる方どなた
でも⑤高校生が主体的に企画運営をして、主に
地域の高齢者居場所を作っています。



ゆめの園ボランティア

- ①月1回程度土曜日②筑波大学附属坂戸高等学校
④障害者施設ゆめの園の利用者⑤高校生が主体的
に企画運営をして、障害者施設の利用者の皆さん
と様々な体験を行っています。

つるがしまジュニアサポートクラブ

- ①定期②主に鶴ヶ島市内④子ども会の子も達
等⑤子ども会の子も達とレクリエーションやゲ
ームを行っています。鶴ヶ島子どもフェスティバ
ルの運営を行っています。

ヤングボランティアグループコスモス

- ①毎月第2日曜日
②③企画による
④障害のある
中高生
⑤対象のメンバー
と同じ世代の学生
等がお出掛け、調
理等様々な企画を
考え同じ目線で活
動を行っています。年に1回は宿泊のキャンプ
も行っています。



ちゅうりっぷ学習会

- ①毎月1回程度土曜日 10:00~12:00②東京都豊島
区 特別養護老人ホーム菊おくる園集会室④子ど
もたちとふれあいたい、関わりたい方⑤学生が豊
島区民社会福祉協議会職員と連携して、地域の子
どもたちの居場所作りを行っています。

ていにー☆ていにー

- ①毎月第1・3土曜日 14:00~16:00②鶴ヶ島市大
橋児童館④児童館に来ている子ども達⑤児童館
で、子どもたちと一緒に遊ぶ。児童館でのイベン
トの運営も行います。

①活動日時②場所③費用④対象⑤活動内容

若者への福祉教育研究会（略称 若福研）

昨今の社会では、生活課題・福祉課題は多様化、複雑化しています。中でも「子ども・若者」を取り巻く社会は「子どもの貧困」「18歳選挙権」「若者の自殺」等が問題になっています。

そこで若福研では、あったかウエルねっと 15周年のテーマでもある「わかもの」が主役になり「共に生きる力」を身につけ、社会の一員として自分らしく歩んでいけるような福祉教育実践を、研究者と共にサービスラーニングの視点でのプログラム化に取り組みました。これまでの研究では、プロジェクトチーム（高校、大学、地域・あったかウエルねっと、地域・ワークキャンプ、精神保健分野、施設での実践プロジェクト等）を設け、埼玉発！草の根からの実践プログラムの「見える化」とブラッシュアップを継続して取り組んでいます。新たなネットワークを構築しながら研究を重ね、地域共生社会の実現を目指します。

<実践プログラム プログラムは、『次世代の共生力を育むための福祉教育実践プログラム集 実践プログラム集』としてまとめました。実費にてお分けしています。>

・若者への福祉教育研究会HP

<http://wakafukuken.wixsite.com/saitama>

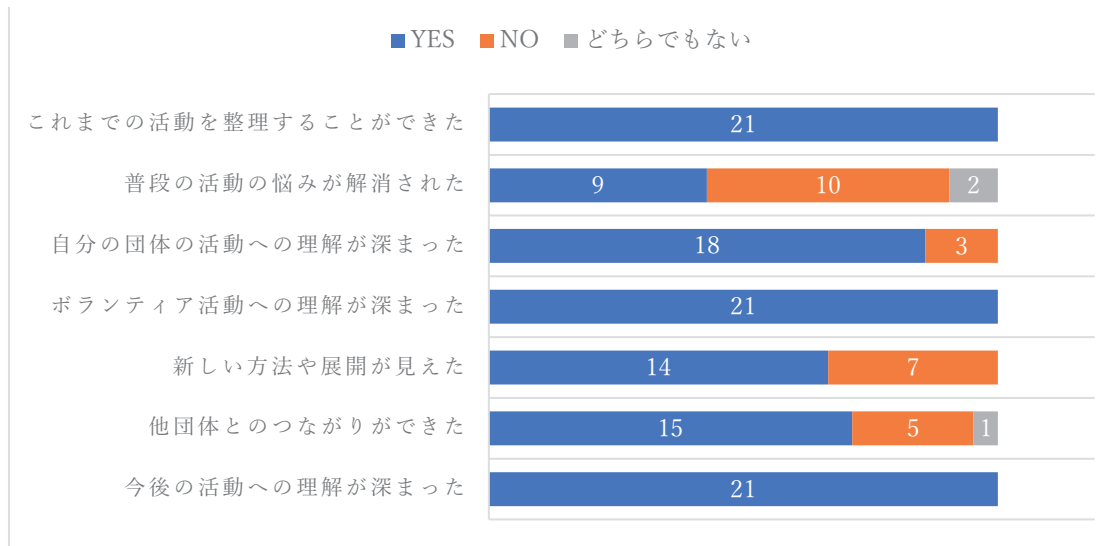
⇒



・フェイスブックのグループページ

<https://www.facebook.com/wakafukuken>

プロジェクト参加者アンケート結果



Q1 これまでの活動を整理することができた Yes 21名 NO 0名

Yes のコメント

- 模造紙製作から今まで自分が参加してきた活動のまとめから整理することができた。
- 自分がどうしてボランティアをしていたかなど改めて考えなおすことが出来た。
- 他団体の活動を知れた。
- 今まで考えてボランティアをしなかったのを改めて考える機会になった。
- ボランティアの価値について改めて考えるいい機会になった。
- パワポやポスターを作成するにあたり、情報の整理が行われるので整理できた。
- 代表の発表を聞いて振り返りが出来た。原点に戻って考え直すことが出来た。
- 発表を聞いて今までの活動の成果を振り返ることができた。
- ボランティアの意味や社会に対する影響を考えることで自分たちの活動を見つめ直した。
- 発表や様々な人の意見を聞いて、自分なりに整理することができた。
- 価値について考える機会がこれまでなかった。とても貴重な機会だった。
- 活動を行ううえで、何を目的として取り組むべきかが分かった。
- 改めて自分達の活動を報告するためにまとめたことで、より整理できたと思う。
- 模造紙などにまとめる作業など。
- 自分の活動をしている理由。
- 機会がないと中々できないので課題や成果を気づけてよかった。
- 学生主体のボランティアと大人としての自分の関り方。
- 目的をもう一度ちゃんと知ることが出来た。
- 今までやってきた活動の意味が分かった。
- 自分たちがボランティアをやっている意味や何のためにやっているのかについて改めて考えることができた。

- 色々な団体や人の活動を聞いて改めて今までの活動や自分のボランティアに対する意思を考え直すことができた。

Q2“普段の活動の悩みが解消された” Yes 9名 NO 10名 どちらでもない 2名

Yes のコメント

- ボランティアの周知の新たな提案を聞いた。
- 後輩のボランティアを増やしていくのが大変。
- ボランティアを広める方法を知れた。
- ボランティアって何のためにあるのか。
- 各団体が人手や資金で悩んでいるところが多く、対策などをお互い考えることはできた。
- 学生との関わり方。
- 企画の準備段階で行き詰まる事も多かったけど、楽しむことが一番という言葉に救われた。そうだと理解することができた。
- 自分が何のためにボランティアをやっていたかわからなかったが色々な人の話や意見を聞けて良かった。
- 他の団体の方から運営の仕方についてアドバイスがもらえたので実行してみたいと思った。

NO のコメント

- 話し合いの場に参加していないため。
- 悩みは特になかった。
- あまり悩みがなかった。悩みとして捉えていなかったかもしれない。

どちらでもないのコメント

- 具体的な解決策は見えないが、方向性が決まった。
- 理由としては共有,他の人の悩みを知ることができたものの解消できたとは言えない。

Q3 自分の団体の活動への理解が深まった Yes 17名 NO 4名

Yes のコメント

- 自分たちは高齢者のため、また、自分たちのためでもあることを理解できた。
- 振り返りが出来た。
- 改めて活動内容を知ることが出来た。
- 改めて自分がしているボランティアの目的を知った。
- ポスター制作を行って、あらためて気づくニーズがあった。
- 自分たちと連携している組織にありがたみを感じる事が出来た。
- さらに、活動に力そそぎたいとすることができた。
- 自分たちの活動を他の団体に発表したり他の人の意見を聞いて、自分たちの団体の意義や価値を見つめ直すことができた。
- 自分の団体、活動にどんな意義があるのか考える機会になった。
- ボランティアの中心目的などが明確になった。地域とのつながりや人と人をつなぐもの。
- 改めて考える事も多くあり、具体的(社会にとってなど)に活動の意味を考えられた。

- 他団体に言うことで自分の団体の秀でている部分がわかり自分のやっていることをアウトプットすることができた。
- 社会勉強になることを発見でき、新しい気付きのできるボランティアであると気づけた。
- 受入先からのコメントで自分たちの活動がゆめの園の方へ良い影響を与えられていることを知ってうれしく思った。
- 石井さんの話を聞いて自分のボランティアをしている理由、ボランティア団体自体が目標としていることを再確認できた。

NO のコメント

- 普段振り返っていない部分まで振り返ることができた。
- 最初から深かったから。

Q4 ボランティア活動への理解が深まった Yes 21 名 NO 0 名

Yes のコメント

- 自己の価値、社会にとっての価値からボランティア活動の意味を改めて感じられた。
- 1人1人ボランティアへの意味ややりがいとは違って自分にとってのやりがいを見つけることが出来た。
- ボランティアをする意味や意義を知ることが出来た。
- 高校生がボランティアを行う意義を理解することができた。
- 利己から利他へというプロセスが見えた。
- してあげる・やってあげるは✕。共に行う、サポートすることが一番大切。
- 理解がさらに深まった。
- ボランティアに対する見方や考え方を深めることができ、自分にとってのボランティアとは何か考えることができた。
- 他の団体から他のボランティアの活動について、活動の背景にある地域課題について考えることができた。
- 1つの団体に違う視点から問題を解決しているが違う目的だからこそ共通する部分がたくさんあり人とのつながりになるのではと思う。
- 自分達以外のボランティアグループの活動を知ったことで、理解が深まった。
- 「自分のため」からその他のためにも、につなげていく。
- 団体だけでなく個人の考えを知ることができた。
- この活動に参加して、多くの学生主体の団体が有る事がわかった。必要とされれば参加してみたいに思った。
- シンポジウムでお話ししていた4人の意見をきいて、共感したり、納得することができた。
- 誰のために行うのかを考えられた。
- ボランティアが他者のためだけではなく自分のためだということが知れた。
- ボランティアは他者のためだけでなく自分のために行うんだという新しい意見を聞けてボランティアの意義は人によって違って良いんだと思った。

Q5“新しい方法や展開が見えた”**Yes 14名 NO 7名****Yes のコメント**

- ☐ 違った形態のボランティア活動の報告を聞けて、今後私たち2年が引き継いでいく新しいアイデアが見つけられた。
- ☐ 団体によって支援の方法はさまざまで、いいと思った内容を自分の活動に取り入れたい。
- ☐ ボランティアの周知の方法を考えるきっかけになった。
- ☐ 他の活動が見えたことで自分の活動に生かすことが見えた。
- ☐ 楽しさを忘れない大切さを知れた。
- ☐ ボランティアに対する見方や考え方が自分にはなかったものについても知るこをができた。
- ☐ 他の活動、団体のノウハウ、活動内容が参考になった。
- ☐ 抱える問題や他のグループの取り組みを見て、まねたり、自分なりに考えた方法を試そうと思う。
- ☐ 意味を考え直す事ができた。
- ☐ 他の視点からの意見を取り入れる。
- ☐ 他団体のレクやゲームを教えてもらえたらいいのかなと思う。
- ☐ 自分のため、人のため、という気持ちだけでなく、楽しい、面白いなどの気持ちをもってやっていこうと思った。
- ☐ 自分のためでいいと広められる発見ができた。

NO のコメント

- ☐ まだ見えるまでに至っていない。
- ☐ 現状が良いと思っているので、新しい展開は特になし。
- ☐ 新しい展開は特に見えなかった。
- ☐ 他団体の話を聞きましたが、目的や共通する点はあったりするが、やはり自分の団体だけの特徴もボランティアで大切なことだと思うから。
- ☐ 広めていくにはとかいう意見はきけたが具体的な方法は分からなかった。
- ☐ ボランティアを広めていく上で必要な新しいアイデアなど具体的なことは見つからなかった。

Q6“他団体との繋がりが出来た”**Yes 15名 NO 5名 どちらでもない 1名****Yes のコメント**

- ☐ 鶴ヶ島で活動している方と話すことが出来てこう言ったボランティアが全国展開していることを実際に知ることが出来た。
- ☐ 高校生が主体で行っているボランティアが多く驚いた。
- ☐ 机を円状にしたので会話が生まれた。
- ☐ お互いのボランティアについていろいろと知れる機会となった。
- ☐ 若福を通して他団体の事を知ることができ、繋がりを持つ事ができたと思う。
- ☐ ディスカッションを通してつながることができた。
- ☐ 課題や情報共有、意見交換をしてつながることができた。

- メンバーと交流ができた。
- プロジェクトをしていくうえで他の団体と話し合うことで繋がりが深まった。また、コミュニケーションを取れるようになった。
- 似た活動を知る事ができたのがわりと大きかった。
- ていにーや子ども食堂に参加した。
- プライベートでのつながりも生まれてた。
- 他のボランティア団体への参加（学生も含めて）。
- ちゅうりっぷ学習会さんは初めての関わりでしたがコミュニケーションをとったり情報共有ができた。
- 参加してみたいボランティアがあった。
- この会で知った活動を自分も参加するようになったので、新しい繋がりを持ててよかったなと思った。

NO のコメント

- あまり他団体の方と話すことができなかった。
- 話しかけられなかった。
- 今日だけの参加で他の人とあんまり関われなかったから。
- 他団体の発表や意見は聞けましたが繋がりは持てなかった。

どちらでもないのコメント

- 知り合うことはできたが、そこまでのつながりはない。

Q7 今後の活動への理解が深まった Yes 21名 NO 0名

- 他の人の活動の価値を聞き、それを踏まえて、こうしよう！と考えることができてよかった。
- 不純な動機や正当な動機がしっかりあって目的を達成しようと努力しているのを見て頑張りたいと思った。
- いろいろなボランティアに関わりたい。
- 自分のペースで関わっていければいいと思う。
- 他の活動の良さを生かしていきたいと感じた。
- 他の活動が頑張っていることを知ることで励ましになった。
- 現状のまま頑張りたい。これからも利用者が楽しんで頂ける企画を立てたい。
- さらに活動をより良いものにしていきたいと思えた。
- 今回とり入れた知識を使って頑張りたい。
- 自分たちの活動の意義や価値を見つめ直したり、新たに発見できたので、より頑張っていこうとすることができた。
- 改めて自分の活動が好きになった。
- 人とのつながりを大切に。
- 周りの人に負けないよう積極的に頑張ろうと思う。
- 同じ世代を知れたのがよかった。

- 他団体の人の活動を聞いて取り入れるべきところ、似ているところ、直した方がいいところと考えなおすことができたので次にいかす自分への意欲に繋がったから。
- 全員異なる課題を持っている中で自分ももっと頑張らないといけないというモチベーションになった。
- 学生が頑張っている。それに負けない様大人として頑張っていきたい。物事を伝えたりとか
- 他にもやってみたいボランティアはたくさんあって、中々手を出せずにいるので、少しずつはじめてみようと思った。
- 自分のためにやっているボランティアでも自分のため他人のためになっていることを考えて頑張りたい。
- 他の団体の意見を聞いたことで新しい考え方を持てたので、今後の活動で活かせばいいなと思った。
- 自分の中でボランティアをする意義、理由、目的をもっと具体的に決めていこうと思った。たくさん刺激をもらった。

Q8“その他気づいたこと感じたこと考えたこと”

- 今までのボランティアについてアウトプットすることが出来てよかった。
- 自分のことをうまく伝えられるようになりたい。話したいことを上手くまとめられなかった。
- ボランティアをやっている人は、みんな本気で充実していると感じた。ボランティアに参加していてよかった。
- この研究会を通して様々な団体について することができた。このようなボランティア活動がもっと広まってくと社会がもっと良くなっていくと思った。
- 他団体との交流を通して自分たちの活動を多角的にとらえることができた。若福の研究会がなければここまで深く自分たちの活動やボランティアについて深く考えることはできなかった。同じような機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたい。
- 皆さんとこの会で出会えてよかった。5回とも楽しかった。ボランティアのことを深く考えることができた。ボランティアについて似たような考えをもっている人同士で集まる有意義を話し合いになって自分の考え方があらためて思いなおす。
- 似たような悩みも多く共に解決できるのではないかと思う。実際に中心でボランティアをやっている人たちと話すことは貴重でとてもいい経験になった。
- もしも、「次」があるとしたら、発表の時間を長くにとってほしいなと思う。
- 優しい人ばかりでとても良い研究会であった。もっとボランティアについて広められたらいいなと思う。
- 自分はこの会に参加するまでボランティアについて深く考えたことがなかったので毎回自分が何を発言すればいいのか困っていたけど何回か参加するうちに自分の考えを持つことができたのでよかった。自分自身がボランティアをしている意味は何なのか改めて考え直すことができた。若い世代の人がボランテを継続的に行うことは私たちの将来に良い影響を及ぼすと思った。

若者への福祉教育研究会 コメンテーター アンケート

| | | 筑波大附属坂戸高等学校 教諭 熊倉 悠貴 | 鶴ヶ島ゆめの園 伊藤 有紀 | コスモス 関 節子 | 鶴ヶ島市大橋児童館 小高 悟嗣 | 鶴ヶ島子ども会育成会 北岡 充代 | 鶴ヶ島市社会福祉協議会 北堀 尚美 |
|----|-------------------------|---|--|---|---|--|--|
| Q1 | 今回はどの団体へのコメントータとして参加したか | | ゆめの園ボランティア | コスモス | ていにー☆ていにー | つるがしまジュニアサポータークラブ | 筑坂高校生による「ひだまりサロン」 |
| Q2 | 高校生・高校生への感想 | 学生たちの力はすごいと思う。それを自覚していないところが大人としては応援してあげたくなるポイントである。 みんな初心を忘れず頑張っている!! | 福祉施設においてボランティアの存在はすごくありがたく助かっている。これからお願いしたい。 | 今日のテーマでボランティアを掘り下げて、皆発言してくれて、よかった。自分のことと照らし合わせて、考えることができた。 | 自ら進んで何かを行おうとする事は、とても大事な事と思う。自分の為他人の為問わず一歩踏み出した事が大事であり、その活動は必ず自らの力になる。 | ・ これからも自分の活動を信じてがんばってほしい。 ・ 卒業で今の団体を離れる事になっても、今までの活動スキルを新しいスティージで生かしてほしい。 | 楽しく活動している様子が感じられた。 これからも地域とのつながりを持ち、良い関係性をつくってもらえたらなと思う。 高校生が「ひだまりサロン」に参加しているだけで価値感大である。 |
| Q3 | その他、イベントについて気づいた点 | 教員としては言語化することが大切だと言っているが、なかなか自分だけでは難しい部分があると思うので、今日のような機会はとても助かる。 | 円になっているので"みんな"で考えるとという雰囲気があった。 | 司会の人が進手が上手であった。 皆それぞれの思いでボランティアをやっていて、でも結局自分のためになっていると気づいてきた。 本当にすばらしい人たちに会った。よかった。 | 時間の配分 もっと多くの人の意見を聞きたかった。 | ・ とても良、「社会教育でもあるな」と感じた。 ・ もっと大きな舞台で（社会教育関係の人々のいる場）発表させてあげたい。 | 若い力ってすごいなと感じた。 素晴らしい発表を聞くことができたので、もっと多くの人たちとこの場を共有したかった。 |
| Q4 | 若者への福祉教育研究会へのご意見 | 学生たちの力は無限大だと思いうので、新しい活動を考えてる機会（学生、地域の人が出会う場所）を作れたら、もっと活動が広がっていくと思う。 | 人材の確保が課題となっていた。せっかくの機会なので今回の7団体と関わりがないう高校の先生、大学、様々な人が参加し話を聞くイベントになればよりいいのではないかと思った。又、各機関が繋がる機会にもなるようなスケジュールがあれば良い。短い時間ではありましたが、学生目線の話が聞けて勉強になった。 | | 今後を考えていく際、絶対必要な活動と感じる。 | これでひとまず終了とのことだが、メンバーが変わっていく事もあるので第2、第3と続けてほしい。 | 地域福祉を担う人材として、福祉は誰もが身近なものであるという認識を広め、地域福祉の推進のため、この活動を続けてほしい。 |

若者への福祉教育研究会報告書

若者発！
ボランティア・福祉教育実践研究プロジェクト

発行日：2020 年 3 月

発行者：若者への福祉教育研究会（代表 横田八枝子）

企画・編集・監修：牧野郁子・倉持尚美・川田虎男

連絡先：〒350-0214 坂戸市千代田 4-7-12-504

電話／FAX 049-281-3161

MAIL wakafukuken@gmail.com

HP <http://wakafukuken.wixsite.com/saitama>

FB <http://www.facebook.com/wakafukuken/>



埼玉県社会福祉協議会ひまわり基金と、
赤い羽根共同募金の助成を受けています。